

2024年2月9日

各位

会社名 PHCホールディングス株式会社
 代表者名 代表取締役社長 CEO 宮崎 正次
 (コード: 6523、東証プライム市場)
 問合せ先 経営管理部 上席部長 木村 正志
 (TEL. 03-5408-7280)

臨床検査及びLSIM診断薬資金生成単位における減損損失の計上及び
 通期業績予想の修正に関するお知らせ

PHCホールディングス株式会社(以下「当社」)は、2024年3月期第3四半期において臨床検査及びLSIM診断薬資金生成単位において合計13,983百万円の減損損失を計上しました。また、2024年3月期第3四半期連結累計期間の業績等を踏まえ、2024年3月期(2023年4月1日~2024年3月31日)の業績予想を下記の通り修正しましたのでお知らせいたします。

なお、2024年3月期第3四半期連結累計期間の業績については、本日公表の「2024年3月期 第3四半期決算短信[IFRS]」をご覧ください。

1. のれん及び無形資産の減損損失の計上について

2024年3月期第3四半期連結会計期間に、臨床検査資金生成単位においてのれん及び無形資産の減損損失12,737百万円、LSIM診断薬資金生成単位においてのれん及び無形資産の減損損失1,246百万円をそれぞれ計上しました。これは、臨床検査資金生成単位においては、新型コロナウイルス感染症収束後に感染症拡大前の水準まで検査数が回復する前提の事業計画であるところ、業績の実績と事業計画の乖離が生じていること等により減損の兆候があると判断し、減損テストを実施したことによるものです。また、LSIM診断薬資金生成単位においては、LSIM事業全体のうち上述の臨床検査資金生成単位における業績の実績と事業計画の乖離を受け、適用される割引率の上昇が見込まれたこと等により減損の兆候があると判断し、減損テストを実施したことによるものです。

2. 業績予想の修正等について

(1) 2024年3月期の連結業績予想数値の修正(2023年4月1日~2024年3月31日)

	売上収益 (百万円)	営業利益 (百万円)	税引前 利益 (百万円)	当期利益 (百万円)	親会社の 所有者に 帰属する 当期利益 (百万円)	基本的1 株当たり 当期利益 (円)	*調整後 EBITDA (百万円)	*キャッ シュベー スでの親 会社の所 有者に帰 属する当 期利益 (百万円)
前回発表予想 (A)	355,500	27,100	16,800	14,100	13,700	108.92	60,200	23,400
今回修正予想 (B)	351,500	2,600	△9,800	△7,200	△7,600	△60.42	51,000	15,300
増減額 (B-A)	△4,000	△24,500	△26,600	△21,300	△21,300	△169.33	△9,200	△8,100
増減率 (%)	△1.1	△90.4	—	—	—	—	△15.3	△34.6
(参考) 前期連 結実績(2023年 3月期)	356,434	20,000	179	△3,048	△3,222	△25.84	64,882	22,473

(注) 調整後 EBITDA 及びキャッシュベースでの親会社の所有者に帰属する当期利益を以下の算式により算出しております。

$$\text{調整後 EBITDA} = \text{EBITDA} + \text{一時的な収益} \cdot \text{費用}$$

EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + 減損損失 (有価証券等を除く)

キャッシュベースでの親会社の所有者に帰属する当期利益

= 親会社の所有者に帰属する当期利益 + M&A 関連の有形・無形資産償却費
+ 減損損失 (有価証券等を除く) + 転換権付貸付金時価評価収益・費用 + 法人税見合い調整額

*調整後 EBITDA 及びキャッシュベースでの親会社の所有者に帰属する当期利益は、国際会計基準(IFRS)に則った開示ではありませんが、当社はこの開示が投資家の皆様に有益な情報を提供すると考えています。

(2) 修正の主な理由

通期見通しの前提となる為替レートは1ユーロ 155 円、1 米ドル 144 円から変更はありませんが、当期までの実績を反映し、以下の理由により業績予想を引き下げます。

売上収益は、糖尿病マネジメントにおいては、BGM 事業の市場縮小影響及び CGM 事業が想定を下回るリスクを織込みます。ヘルスケアソリューションにおいては足元の実績を踏まえ、臨床検査需要の回復遅延及び電子処方箋の導入時期の遅延を織込みます。診断・ライフサイエンスでは欧米を中心とした市場環境悪化の影響を織込みます。

営業利益は、第4 四半期連結会計期間に構造改革効果の発現やコスト削減等により一定程度の利益率改善は見込むものの、従来予想を引き下げ 26 億円を見込みます。前回予想との差額 245 億円の内訳は、糖尿病マネジメントで 63 億円、ヘルスケアソリューションで当第3 四半期連結会計期間に計上した減損損失 140 億円を含み173 億円、診断ライフサイエンスで14 億円です。これまでの実績や上述の利益率改善や売上収益の悪化、為替影響等による減価償却費の増加等の今後の見込みを織り込んだものです。

調整後 EBITDA は、上述の営業利益の増減理由及び減価償却費の調整を織込み、510 億円とします。

また、これまでの為替差損益の実績と今後の利息費用の増加を織込み、税引前損失は 98 億円を見込みます。税額に実績と上述の減益影響を織込んだ結果、当期利益は 72 億円の損失に修正します。よって、親会社の所有者に帰属する当期損失は 76 億円となりますが、キャッシュベースでの親会社の所有者に帰属する当期利益は、153 億円を見込みます。

以上